

発行：日本社会病理学会
事務局：〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96
佛教大学 日本社会病理学会事務局
TEL 075-491-2141(代) FAX 075-493-9032
URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>
e-mail : sakuta@bukkyo-u.ac.jp
郵便振替口座：00170-4-56341
編集責任者：作田誠一郎（庶務理事）

【目次】

| | | |
|-------------------------|-------|---|
| 1. 第38回大会開催校挨拶 | | 2 |
| 2. 第38回大会について（研究委員会より） | | 3 |
| 3. 編集委員会からのお知らせ | | 4 |
| 4. 2022年度第1回理事会報告（議事抄録） | | 5 |
| 5. 第37回大会決算報告 | | 6 |
| 6. 日本社会病理学会年会費の免除について | | 6 |
| 7. 会員コーナーⅠ（リレーメッセージ） | | 6 |
| 8. 会員コーナーⅡ（近況報告） | | 7 |
| 9. 会員の最新刊図書紹介コーナー | | 9 |
| 10. 会員異動 | | 9 |
| 11. 事務局より | | 9 |

重要事項

1. 第38回大会は、2022年11月5日（土）～6日（日）に北陸学院大学で開催します。詳細については、学会ウェブサイトですら順次お知らせいたします。
2. 新型コロナウイルスの影響で、大学院生等経済上・研究上困難な状況にある会員の会費を、本年度（2022年度）も免除することと決定しました。詳細は「6. 日本社会病理学会年会費の免除について」の項をご覧ください。

1. 第 38 回大会開催校挨拶

竹中祐二（北陸学院大学）

この度、縁あって 2022 年度第 38 回大会の開催校をお引き受けさせていただき運びとなりました。日頃の私とは言えば、研究成果を披露して学会に貢献しているでもなく、それどころか学会運営では皆様にご迷惑をおかけしてばかりです。理事を拝命しておきながらこの体たらくに、大変申し訳なく思う限りですから、不謹慎ながら、汚名返上の機会を頂戴することができたと感じております。それではどうするかと言ったときに、特別なことをするつもりは全くございません。もちろん、感染対策においては万全を期すべく努めるなど、以前にはなかった準備をしなければなりません。しかしながら、コロナ禍が私たちの当たり前前の日常を奪ったから今だからこそ、それを取り戻す必要があるとも思うのです。研究できる環境や、会場や担当者に依存することなどあってはならないと思います。久しぶりの対面開催であるというところで、会員各位におかれましても様々なお気持ちでおられることと思います。ところが終わったときには、良い意味で、「たまたま」／「そう言えば」会場が北陸学院大学であった、という程度の感覚を味わっていただければと思います。純粹に研究・大会に集中して戴けるように、ひたすら黒子に徹する所存ですので、減点法で、お気付きの点については厳しくご指導いただけますようお願い申し上げます。

他方、学会大会の中身以外のところでは、「ならでは」のものを、存分に満喫してお過ごしいただければ幸甚に存じます。北陸学院は、日本海側で唯一の、幼児教育から大学までを有する、130 余年の伝統を誇るプロテスタント系ミッションスクールです。大学キャンパスは自然豊かな三小牛エリアに所在し、礼拝堂をはじめ、古き良き雰囲気を楽しむことのできる施設・環境を大切にしております。大会の前後では、「加賀百万石」の城下町として栄えた金沢市をどうぞ堪能して下さい。兼六園や尾山神社、ひがし茶屋街に代表される由緒正しい武家文化の歴史ある趣と、北陸新幹線開通以来特に進みつつある北陸三県の中核として機能する都市的雰囲気とが程良く入り混じっております。中心にある片町エリアでは、新鮮な恵まれた海の幸と、寒冷な気候と霊峰白山に育まれた日本酒とに舌鼓を打っていただくことができます。とりわけ大会の開催される 11 月 5 日・6 日の頃には、多くのエリアで紅葉が見頃を迎え始めているのではないのでしょうか。ひよっとすると宿泊手配もお急ぎいただくのが良いかもしれません。ただ、「弁当忘れても傘忘れるな」という古くからの言葉に示されるように、全国トップクラスの年間降水量を誇っており、全てのご予定を台無しにする程の大雨に見舞われるかもしれません。そんな不便さも含めて、隅から隅まで石川・金沢を味わっていただける 2 日間をお過ごし下さいませ。

2. 第 38 回大会について（研究委員会より）

今年度の大会は今期理事会による最終年度の大会となります。大会は、2022 年 11 月 5 日(土)と 6 日(日)です。場所は北陸学院大学です。対面で開催予定です。

今期の研究委員会は社会病理学研究と学会の活性化をめざし、①社会病理学研究のすそ野を広げていくこと、②関連する社会学分野との対話を促進すること、③社会病理学研究の若手層を拡大していくことを念頭においてシンポジウム、ラウンドテーブルを組織してきました。社会病理的現象がたくさん生起している現代社会をさまざまな角度から把握し、社会病理学研究や学会の活性化につなげる努力を試みてきました。

シンポジウムは、社会病理学における地域・都市研究の広がりや深まり（2020 年度）教育をめぐる社会病理（2021 年度）をテーマに組織しました。2022 年度は家族研究と社会病理学の交差を軸に企画を進めています。現代家族の争点と社会病理学研究について、臨床家族研究・家族ソーシャルワーク、家族を争点とした社会と国家の動態、そうした事象への家族社会学、そして社会病理学研究の役割などを話題にしたいと考えています。「ラビリンス（迷宮）としての家族」として現代家族問題の錯綜する状況を把握する論題を予定しています。

ラウンドテーブルは若手研究者を中心に発題しやすい話題としてきました。流れとしては、社会病理学のすそ野を広げていくために社会的排除の諸相を取り上げてきました。昨年度は時代が直面しているコロナ禍というパンデミックにもついても言及しました。今年度は戦争に焦点をあてます。特に「日本社会病理学会理事会声明」として 2022 年 3 月 11 日付で下記のコメントを出したことも関係している研究的課題の提示となります。

この度のロシアによるウクライナへの軍事的侵略によって、子どもを含む多数の民間人の命までも奪われています。また、多くの難民や家族の離散などが生じており、ウクライナ国民の大事な生活が破壊されています。このような武力による侵略行為は、平和を求める世界の人々に対する挑戦であり、最悪の社会問題・社会病理であり、絶対に許すことはできません。人間の命を奪い、国と家族を破壊している軍事的侵略を直ちに中止して、ロシア軍のウクライナからの撤退を強く要求します。

この「最悪の社会問題・社会病理」に対して、社会病理学者としていかに向き合っていけばよいのでしょうか。このラウンドテーブルでは戦争に関する研究を蓄積している方を話題提供者として迎え、戦争への向き合い方について参加者と共に考えていく機会を提供します。

さらに、書評セッションを予定しています。2019 年 10 月に『社会病理学の足跡と再構成』（学文社）が出版されました。社会病理学会監修です。これをめぐって、社会病理学研究に最近関心を持つに至った若手研究者（会員以外もしくは最近会員となられた方）を中心にこれをどう読んだのかについて報告をしてもらい、執筆者の方々と対論します。

この二年間はコロナ禍のためにオンライン大会でした。今年度は今期理事会として初めての対面大会を予定しています。自由報告部会にもたくさんの申込みがあることを期待しております。自由報告部会のエントリー締切は 9 月 15 日まで延長しますので、引き続きエントリーをお待ちしております。

大会の日程です。

11月5日（土）

10:00～11:00 旧理事会

11:00～12:00 新理事会

12:30 受付開始

13:00～13:10 開会式

13:10～15:10 ラウンドテーブル

15:20～17:40 書評セッション

17:50～18:50 総会

11月6日（日）

9:30 受付開始

10:00～12:00 自由報告部会

13:00～16:00 シンポジウム

16:00～16:10 閉会式

（研究委員会 中村正）

3. 編集委員会からのお知らせ

1. 現編集委員会は11月の学会大会の時点で任期満了となります。

したがって、機関誌『現代の社会病理』38号への自由論文投稿を希望される方は、2023年1月末日までに、新編集委員会あてのメールアドレスに、論文の表題（仮題で結構です）添えて、ご連絡をお願いします。なお、投稿原稿の締め切りは2023年2月末日必着です。新しいメールアドレスは、新編集委員会が発足しましたら、学会HPでお知らせ致します。

投稿を希望する際は、前年12月までに会員資格を有することが必要です。入会に関しては、学会HPを参照してください。多くの会員からの投稿希望の連絡をお待ちしております。

2. また、引き続き38号でも「国際会議参加報告」を募集することになりました。分量は2ページ以内です。2022年4月～2023年3月に開催の国際会議に参加し、参加報告の執筆を希望する会員は、同じく上記メールアドレスまでご連絡ください。連絡の締切日は自由投稿論文希望締切日(2023年2月末)と同じとします。国際会議の開催場所は国外・国内を問いません。但し、同一の国際会議に参加して参加報告を希望する者が複数いた場合は、編集委員会の方で調整しますことを、あらかじめご了承ください。

3. 現在、機関誌『現代の社会病理』37号の編集作業が進行中です。学会大会までの刊行をめざしています。今後、印刷所から校正等の連絡が入りますので、執筆者の皆様のご協力よろしくお願いたします。

（編集委員長 山本努）

4. 2022 年度第 1 回理事会報告（議事抄録）

1. 日時：2022 年 6 月 26 日（日）14:00～17:00
2. 場所：Zoom を利用したオンラインミーティングを実施
3. 出欠：出席者 11 名（朝田佳尚、金子雅彦、作田誠一郎、高野和良、高原正興、竹中祐二、田中智仁、中村正、中森弘樹、麦倉哲、山本努）で定足数を満たした。その他、学術奨励賞選考委員会より畠中宗一委員が 4 ①についてのみ陪席した。

4. 議題

①学術奨励賞の選考について

畠中委員より、2022 年度学術奨励賞への応募状況や選考結果についての説明が行われた。授賞者については、全会一致で承認された。

②機関誌「現代の社会病理」37 号の編集の件

山本編集委員会委員長より、特に書評対象の基準について提案がなされ、理事会として、今期の基準を次期にも引き継いでいくことが確認された。

③「現代の社会病理」投稿執筆規定の付加：査読の際の回答書（説明書）の必要性について

山本編集委員会委員長より説明がなされ、議論の結果、査読に際し、執筆者が査読者の指摘に対応した結果について説明書（様式自由）を付して提出することが決議された。

④第 38 回大会プログラムの件

中村研究委員会委員長より、第 38 回大会のプログラム案と登壇者案について説明が行われた。

高原会長より、第 38 回大会は北陸学院大学を開催校とすることが報告された。

⑤入会・退会希望者の承認の件

作田事務局長より、配付資料に基づいて説明がなされた。

6 件の入会希望ならびに 7 件の退会希望につき承認され、また 1 件の資格喪失について報告がなされた。

5. 報告

①庶務部報告として、竹中庶務理事より、2022 年度理事選挙のスケジュールと準備進捗状況について報告がなされた。

また、中森庶務理事より、次号ニュースレターの作業スケジュールについて説明が行われた。

②会計部報告として、麦倉会計部理事より、2021 年度決算の作業中であることが報告された。

③編集委員会報告として、山本編集委員会委員長より、機関誌第 37 号の掲載予定ならびに発行スケジュールについて報告がなされた。

④渉外・広報委員会報告として、金子理事より、大会情報を日本犯罪関連学会ネットワークに連絡予定である旨の報告がなされた。

④作田事務局長より、入退会の承認に伴い会員数が 175 名となったことが確認された。

⑤次回理事会は 2022 年 9 月 17 日（土）18 時～20 時の予定で、オンライン開催とすることが確認された。

現理事会の最終、ならびに新理事会の初回の会議については、それぞれ第 38 回大会当日の 11 月 5 日（土）に開催することが確認された。

（庶務理事 竹中祐二）

5. 第 37 回大会決算報告

| | 金額 | 費目 | 備考 |
|------|---------|----------|------------|
| 収入 | 60,000 | 学会補助金 | 日本社会病理学会より |
| | 162,733 | 立命館大学補助金 | |
| 収入合計 | 222,733 | | |

(注) 学会大会がオンラインで実施したため受付収入はなし

| | | | |
|------|---------|--|-----------|
| 支出 | 14,241 | 弁当代・お茶代 | 大会運営関係者 |
| | 162,733 | オンラインZoom契約 費・講師謝礼・手数料・ 学生アルバイト代 | 立命館大学補助金 |
| | 45,759 | 寄付金 | 日本社会病理学会へ |
| 支出合計 | 222,733 | | |

6. 日本社会病理学会年会費の免除について

日本社会病理学会は、新型コロナウイルスの影響で、困難な状況が発生していると思われる会員の会費を、昨年同様本年度(2022年度)も免除することと決定しました。

該当する会員は以下の通りです。

大学院生等経済上・研究上困難な状況にある方

上に該当し、学会費の免除を申請する方は、申請書を学会ホームページ (<http://socproblem.sakura.ne.jp/info/2022kaihi.html>) よりダウンロードいただき、必要事項を記入の上、日本社会病理学会事務局宛に、メールまたは郵便にて送付してください。

日本社会病理学会事務局は、申請の事由を確認したのちに、免除の可否を通知いたします。

7. 会員コーナー I (リレーメッセージ)

金本佑太 (神戸学院大学)

私は現在、若年無業者の社会的排除の実態と社会的包摂に向けた支援の在り方について研究を進めています。なかでも、就職活動に必要な技能面での支援と、日常生活の立て直しや他者とのコミュニケーション訓練も行う包括的な若者支援として、地域若者サポートステーション (サポステ) 事業に着目しています。日本社会病理学会第 36 回大会のラウン

ドテーブル「若手・中堅にとっての社会病理学の可能性—現代の社会的排除を捉える方途—」では登壇者として、若年無業者が経験する社会的排除の現状について報告する機会をいただき、また大変貴重なコメントをいただきました。ラウンドテーブルを企画いただいた研究担当理事の先生方をはじめ会員の皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、2022年現在も、新型コロナウイルス感染症の拡大状況（コロナ禍）は、私たちの生活に大きな影響を与え続けています。なかでも、ソーシャルディスタンスの確保ならびに対面での諸活動の自粛は、親しい人々との接触機会の減少につながり、人々の孤独感を増大させています。そのなかで、サポステ事業の活動はどのような変容を迫られたのでしょうか。支援者に対するインタビュー調査によると、それまで行っていた相談支援は、利用者が対面を強く希望しない限り、電話方式や ZOOM などを活用した遠隔会議方式へ移行し、コミュニケーション講座などの支援プログラムは、感染対策を十分に行い、また人数を限定したうえで、対面で継続しています（緊急事態宣言下では中止しています）。

その一方で、利用者にはどのような変化がみられたのでしょうか。彼らが無業であることによって自信を持てず、他者との交流に苦手意識を感じていることは、これまでの調査から明らかになっていました。そのため、コロナ禍で対面の諸活動が制限されている状況では、自宅にいて誰とも会わないことはむしろ社会全体として推奨されることであり、かえって若者は無理して外出したり、他者とのコミュニケーションに駆り立てられたりすることもなく、負担を感じずに済むのではないかと考えていました。

しかし支援者の方々のお話によると、実際の相談支援では、自宅から出ずに済む遠隔会議方式ではなく、対面での相談を希望する利用者が多くいます。その理由として遠隔会議方式では、支援者の雰囲気を感じ取ることが難しく、信頼できるかどうかを判断できないことや、カメラに自分の上半身が強調されて映ることで、自分が相手にどう見えているかに強い不安を感じてしまうことがあります。つまり、遠く離れた相手と気軽にコミュニケーションを取るための遠隔会議方式は、自信を持ってない若者にとって、他者のまなざしへの反応を過敏にし、余計に不安を増大させる装置として機能していることが示唆されました。

以上、とりとめのない話になってしまいましたが、今後も支援者、利用者の方々のお話を聞かせていただきながら、若者が働けないことで自信を失い、生きづらさを感じる社会とはどんな社会なのか、その問題点と解決策について考えていきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

8. 会員コーナーⅡ（近況報告）

◆中村正（立命館大学）

2022年度になってから刊行したものです。

著者に出会ってから27年経ちましたがようやく刊行できた男性性ジェンダー研究の基本書です。下訳をしつつ、解説を書いています。

Connell, Raewyn, [1995] 2005, *Masculinities* 2nd ed., Polity Press. (伊藤公雄訳 2022 『マスキュリニティーズ—男性性の社会科学』新曜社.)

同じ主題での対論です。

中村正 2022 「男性性と暴力-コミュニケーションに潜む加害と被害の両面から考える」 澁谷智美・清田隆之編『どうして男はそうなんだろうか会議』筑摩書房: 99-137.

立命館大学のチームで取り組んできたものの集大成です。

中村正 2022「プロジェクトにおける『家族応援』の意味と『お父さん応援セミナー』の取り組み-日常生活のコミュニケーションにおける男性性ジェンダー作用」村本邦子編『災厄を生きる-物語と土地の力 東日本大震災からコロナ禍まで』国書刊行会: 229-258.

暴力と暴力性、加害行為と加害性、暴力連続体など臨床社会学的に書いてみました。

中村正 2022「加害行為研究の視界-加害性、暴力性、暴力の文化、マイクロアグレッション」『現代思想』Vol.50-9(2022年7月号): 33-46.

さらに年末にかけて単著『脱暴力の臨床社会学』（仮題）も予定しています。

◆中森弘樹（立教大学）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

2019年より、立教大学の21世紀社会デザイン研究科という社会人大学院に勤務しています。同研究科は、「社会人」限定の大学院というわけではないのですが、「社会人」が多く通っている大学院です。そこで私は、まったく「社会人」経験のない自分が、「社会人」たちに社会学を教えるというコンフリクトと向き合っています。

こうした近況ですので、学術的な研究はまったく進んでいないのですが、いわゆる社会病理学的な現象について、以下のように手広く扱ってはいます。年末年始頃には次著が出せるかもしれません、下記論考と併せて、もし機会があればどうかご覧ください。

(2) 著書・論文等

中森弘樹 2022「モダニティ・親密性・セラピー——アンソニー・ギデンズ」『心の治療を再考する 臨床心理学 増刊14号』.

中森弘樹 2021「ゴースティング試論——CMC空間の恋愛をめぐる一考察」『現代思想』49(10): 130-140.

中森弘樹 2020「『密』への要求に抗して」『現代思想』48(10): 65-72.

中森弘樹 2020「自死遺族」『臨床心理学』20(1): 70-73.

◆西井開（千葉大学社会科学研究院特別研究員 PD）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

男性の立場から男性研究を行っています。ジェンダーの問題に対して、男性は無関心でいるか反省するか二極化しがちです。そこで、ポジティブなアクションとして、バイスタンダー介入の取り組みに関心を持っています。バイスタンダーとは「緊急事態に出くわした人」を意味し、彼/彼女の行動によって、セクシュアルハラスメントや性暴力などジェンダー暴力が軽減されるとされています。地域の男女共同参画センターと連携しながらバイスタンダー養成の講座も開き、日本における実践知を蓄積したいと考えています。

(2) 著書・論文等

西井開 2022「恐怖するマジョリティ、揺れるバイスタンダー—性差別的ふるまいをした男性にどう対応するか」『現代思想』50(9): 80-91.

西井開 2021『「非モテ」からはじめる男性学』集英社.

西井開 2021「不安定な自己を叙述する—異性愛関係に引き寄せられる男性のライフストーリー分析」『現代思想』49(10): 153-163.

9. 会員の最新刊図書紹介コーナー

鮎川潤（2022）『新版 少年非行—社会はどう処遇しているか』左右社、定価 1980 円。

10. 会員異動

個人情報につきウェブ版では削除

11. 事務局より

1. 会費のお支払いについて

2022 年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2021 年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

- (1) 会費は 7,000 円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」（会則第 19 条 2）という規定にもとづき、大学院生の会費は 5,000 円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく 5,000 円が振り込まれた場合は、2,000 円不足として処理します。
- (2) 会則第 19 条 1 には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。
- (3) 2011 年度から終身会員の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が 15 年以上で 65 歳以上の方が対象となります。終身会費として 7,000 円の納入で、会員資格を継続することができます（ただし、機関誌 1,500 円は実費購入）。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。
- (4) 会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さい。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

2. 所属・住所の変更について

名簿記載事項に変更が生じた方は、事務局までお届け下さいますようお願い申し上げます。お届けの際は、日本社会病理学会ウェブサイト (<http://socproblem.sakura.ne.jp/info/henkou.html>) より「名簿記載事項入力フォーマット」をダウンロードした上で、郵送/FAX/電子メール (shabyori@gmail.com) のいずれかの手段で、事務局までご提出下さい。または、同サイト内の入力フォームからご連絡いただいてもけっこうです。

3. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ (<http://socproblem.sakura.ne.jp>) からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

2022年8月31日

殿

日本社会病理学会
会長 高原 正興
(公印省略)

学会 出席・発表のための出張扱いについて（ご依頼）

日本社会病理学会では、来たる2022年11月5日（土）・6日（日）に、北陸学院大学において、日本社会病理学会第38回大会を開催いたします。

つきましては、本大会に出席・発表する下記会員について、出張扱いその他のご便宜をお取り計らいいただきますようお願いいたします。

記

1. 氏 名
2. 所 属
3. 発表題目

*公印が必要な会員におかれましては、事務局までご連絡下さい。